

251212 地域連携推進会議：関口 議事録

会議情報

日付: 2025-12-12

場所: pintto関口

参加者プロフィール

- 高橋 満作：代表 兼 管理者
- N野 A：サービス管理責任者
- H山 N子様：厚木市障がい者基幹相談支援センター ゆいはあと、相談支援員様
- N澤 T様：障害者相談支援センターいっぽ、相談支援員様
- S藤 T子様：依知地域包括支援センター 管理者様
- K島 A子様：地域代表
- S谷 H江様：利用者であるS谷さんのお母様
- F本 S男様：当該グループホーム利用者さん

話されたこと

1. 地域連携推進会議の目的と概要

- 会議の目的:
 - 障害者向けグループホームの運営品質を向上させ、利用者がより安心して生活できる環境を実現すること。
 - この会議は今年度から義務化されたものである。
- 会議の内容:
 - 関係各所との連携強化、グループホームのサービスへの理解促進、様々な視点からの意見交換を通じて、運営品質の向上を目指す。
- 構成員:
 - 利用者本人、その家族、地域の関係者（民生委員など）、福祉や経営の専門家、市町村の担当者などが含まれる。

2. 運営事業所の紹介

- 運営元: 合同会社（はなつ）。
- 事業拠点: 厚木市内に3つの事業所を運営

- 1棟目（山際）：2024年2月オープン
- 2棟目（関口）：2024年11月オープン
- 3棟目（鳶尾）：2025年5月オープン

- **職員数**: 全体で9名。代表兼管理者は高橋、サービス管理責任者はN野

3. BCP（事業継続計画）と災害対策

- **現状の課題**:

- 社内でBCPの見直しを進めているが、作成したプランが実際に機能するか、リアリティのあるシミュレーションが不足している。

- **感染症（コロナ・インフルエンザ）対策**:

- **対応想定**: 感染者発生時は、ゾーニング（区域分け）、ガウン・ゴーグル着用、生活空間の隔離、食事の居室提供、食器の紙製化、消毒徹底などの対策を想定。
- **過去の経験**: ピーク時には職員の分散勤務や「陽性者が陽性者を介護する」厳しい状況もあった経験が共有された。
- **提案**: 看護師を招いた勉強会の実施、感染リスクの高いトイレの消毒・使用ルールの徹底等を推奨。ポータブルトイレの準備も大事。

- **地震対策**:

- **避難計画**: 建物の安全が確保できれば、環境変化に弱い利用者のために「在宅避難」も選択肢。その場合、物資確保のルート確立が必要。
- **避難所の課題**: 指定避難所（小学校など）での生活が困難な利用者もいる。市の「協定施設」も使用可能な可能性がある。

- **個人の備え**:

- **防災対策チェックリスト**: 個人の特性や必要な配慮、緊急連絡先などをまとめたリストを作成。財布などに入れて携帯しておく、救急搬送時などに役立つ。
- **お薬手帳**: マイナンバーカードはデジタルデバイスのため、システムダウンに弱い。紙ベースでのお薬手帳携帯はやはり重要。

4. 地域連携と情報共有

- **災害時の情報共有**:

- **要支援者名簿**: 障害特性や避難場所などの情報が含まれ、本人の同意に基づき自治会、民生委員、市役所等に事前共有される。同意がない場合でも緊急時には情報共有される仕組み。
- **行政との連携**: 市では災害時に管理者と直接連絡が取れるアプリの導入を検討中。

- **地域との関係構築**:

- **重要性**: 災害時の助け合いのため、自治会への加入や地域の清掃・イベントへの参加を通じて、顔の見える関係を築くことは重要。

- **具体的な取り組み**: 定期的なゴミ拾いなどの地域貢献活動、民生委員との関係構築等。

- **地域課題への対応**: 買い物場所が少ない課題に対し、イオンの移動販売が開始。利用者の参加が地域との関わりを深める機会にもなり得る。

- **情報共有の推進**:

- 会議で出た意見をBCPに反映させ、レポート連絡会などを通じて他の事業所とも共有することが提案された。

5. 利用者の自立に向けた課題

● 金銭管理と成年後見制度:

- **課題:** 金銭管理が苦手な利用者に対し、後見制度の活用が難しいケースがある（判断能力は比較的高いため）。社協の「あんしんセンター」も定員超過で新規受け入れが困難。
- **将来の懸念:** 65歳以上になり高齢者施設へ移行する際、後見人がいないと手続きが困難になる可能性。
- **提案:** 利用者や家族の不安を解消するため、専門機関を招いた勉強会の開催を提案。制度の正しい知識を持つことが重要。

● 住居確保の問題:

- グループホームから自立してアパートを探す際、保証人がいない、障害がある等の理由で入居が困難になるケースがある。これは高齢者にも共通する地域課題。

● 女性向けグループホームと異性間支援:

- **現状:** 中核人材が男性のため、女性専用ホームは展開が未定。
- **課題:** 異性支援者との関係性でトラブルにつながる懸念がある。
- **対策:** 担当者を同性にする、複数人で対応するなど、ケースバイケースでのマッチングが求められる。

17 次の予定

- 成年後見制度に関する勉強会開催を検討する。
- 自治会への参加を検討する。
- 「地域とのゆるやかな繋がり」の形を検討・実施する。（挨拶をしっかりとる、定期的なゴミ拾いなどの地域貢献活動、民生委員との関係構築等）
- 防災対策チェックリストのサンプルを関係者に共有する。
- 今回の会議での意見をBCP（事業継続計画）に反映させる。
- レポート連絡会で、災害対策に関する情報を共有する。